

令和元年度避難地域復興拠点推進交付金 基金事業進捗状況総括表

【事業の内容】

(単位:千円)

| No | 事業名 | 事業実施主体 | 事業経費 | | | | | | 目標 | 目標達成度・評価 | 事業結果 (事業の目的・内容・完了予定期日・経費の使用状況・内訳を含む) |
|----|---------------------------------|--------|---------|----|------|----|---------|----|--|-----------------|--|
| | | | 基金充当費 | | 単独経費 | | 合計 | | | | |
| | | | 予算 | 決算 | 予算 | 決算 | 予算 | 決算 | | | |
| 1 | 浪江町交流・情報発信拠点施設整備事業(用地取得・調査設計事業) | 浪江町 | 398,982 | 0 | 0 | 0 | 398,982 | 0 | 浪江町の復興拠点の中心に位置し、東日本大震災及び原子力災害からの復興拠点として、「浪江町交流・情報発信拠点施設」を整備することで、人々が集まる場をつくり、町の賑わいを取り戻し、浪江町の復興、そして浪江町を未来につなぐための施設整備を目指す。 | 引き続き用地取得交渉を行った。 | <p>1. 事業の目的・内容</p> <p>浪江町では平成24年に東日本大震災及び原子力災害からの復旧・復興の取組を加速させるため、平成24年12月に「浪江町復興計画【第一次】」を、平成29年3月に「浪江町復興計画【第二次】」をとりまとめた。その中で、浪江町中心部に位置する浪江町役場周辺エリアを復興拠点の中心とし、交流・情報発信拠点施設を整備することとした。</p> <p>主な整備施設は交流施設・商業施設・道の駅施設となっており、復興のシンボルだけでなく、帰還後の町民同士をつなぎ、生活の基盤であるとともに、浪江町の現状や復興情報、震災経験等を発信する施設としてふるさとの再生・復興を大きく進める役割が期待できる。</p> <p>現在、各事業について別紙のとおり財源を措置する見込みが立っているが、各制度で事業費を捻出することができない部分について、避難地域復興拠点推進交付金を活用して施設を整備することにより、復興計画の推進を図るものである。</p> <p>今回の申請は造成実施設計費、地質調査業務費を別財源と按分から算出した町負担額及び用地取得費、申請支援業務委託費、路線測量業務費について申請するものである。</p> <p>2. 今回の申請内容及び経費の算出根拠</p> <p>①申請内容 上記事業実施のための基金造成 基金造成完了年月日 平成30年3月13日 事業完了予定期日 令和2年12月25日</p> <p>②必要経費(合計 398,982千円) 経費内訳 ・造成実施設計業務費 17,970千円 ・申請支援業務費 14,347千円 ・地質調査業務費 6,378千円 ・路線測量業務費 1,640千円 ・用地取得費 299,440千円 ・物件移転補償費 59,207千円</p> <p>3. 令和元年度の実績 昨年度に引き続き用地取得の交渉を行った。</p> |

令和元年度避難地域復興拠点推進交付金 基金事業進捗状況総括表

【基金の運用実績】

(単位:千円)

| 事業区分 | 基金の保有区分 | 令和元年度 当初保管額 | 運用益繰額 | 令和元年度 支出済額 | 令和年度 年度末保管予定額 |
|--------------------------|---------|----------------|-------|---------------|------------------|
| 令和元年度 避難地域復興拠点推進交付金事業 | 普通預金 | 398,982 | 0 | 0 | 398,982 |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 合計 | | 398,982 | 0 | 0 | 398,982 |

- ※ 本表は基金の保有区分ごとに記載すること
- ※ 基金の保有区分は避難地域復興拠点推進交付金交付要綱第14条第4項で定める基金の運用方法を参考に記載すること
- ※ 運用益繰入予定額は保有区分ごとの利率を参考に見込み額とを記載すること
- ※ 支払済額は、当該年度内に支出負担行為を行い、出納整理期間に支出したものを含む。ただし、当該年度に債務負担行為のみを行ったものについては含まない。